

句境界における英語の主強勢移動について

服部 範子

三重大学人文学部

1 目的

本発表は変異理論の枠組み(variationist)(変異理論については中尾・日比谷・服部(1997)参照)において、英語の主強勢に関して発音辞典で2通りの強勢が記載されている事例を取りあげ、文脈や単語の使用頻度を知ることのできるコーパスを利用した分析を取り入れることにより、発音辞典に記載されている情報がより正確で詳細なものになること、また、主強勢の揺れは話しことばにおける句境界の設定方法を示唆していることを明らかにする。

2 主強勢の「定点観測」

英語の単語の主強勢がどこにあるかを定める「定点観測」地点は従来、文の最後の内容語の位置とされてきた。実際、権威ある Wells (2000)の発音辞典に代表される主強勢の記載は、その単語が「文の最後の内容語」の位置にあるときの記述である。Wells は問題となる単語の現れる位置によってその主強勢が変わりうることに触れているが、発音辞典ではイギリス英語の母語話者に対して行ったアンケート結果に基づいた次のような使用比率の提示にとどまっている。

- (1) (i) *ápplicable* (16%) ~ *aplicable* (84%)
- (ii) *cómmunal* (68%) ~ *commúnal* (32%)
- (iii) *prémature* (59%) ~ *prematúre* (41%)

この記述では、たとえば(1)(i)の単語に関してイギリス英語母語話者の16%が第1音節に主強勢を置き、残り84%が第2音節に主強勢を置く解釈される。

変異理論の立場からこの数字を見ると、この主強勢の変異出現状況は二者択一という意味で「絶対的(categorical)」なものである。一方、同一話者が文脈に依存して変異を示すならその出現状況は「変異的(variable)」である。2種類の主強勢の置き方をO(=old, 旧)とX(=innovative, 革新)とすると、これら2つの変異出現状況は以下のようにまとめられる。

- (2) (i) 絶対的
文脈: 1 2 3 4 5 6 7
話者 A: OOOOOOO
話者 B: XXXXXXXX
個人間変異のみ
- (ii) 変異的
文脈: 1 2 3 4 5 6 7
話者 A: OOOXOXO
話者 B: XXOXXXO
個人内変異あり

発音辞典の記載は(2)(i)のみを連想させるものであるが、予備調査結果に基づき分節音の変異分析の手法(Labov 1972; 2001)を応用し、単語をさまざまな音声的、統語的構造をとる文の中に置いて被験者(イギリス英語母語話者)に提示し、(2)(i)のみならず(2)(ii)のような変異を引き出すことができた。

3 コーパス利用

文献において主強勢の置き方に2通りあるとされる単語の一つ、*respiratory* は Bank of English コーパスではこの形容詞で終わる文(~ *is respiratory*.)が一つも存在せず、そもそも定点観測地点に現れない。コーパスではこの形容詞の叙述用法は皆無で、*respiratory system/problems/disease* など限定用法に偏っている。本研究では使用頻度の高い文脈に問題となる単語を置いて主強勢の揺れを見る。

4 主強勢移動

単語の現れる位置による主強勢の移動として文献で指摘されるいくつかの例を以下に挙げる(Bolinger 1986)。

- (3) *an óbsolete wórd/ The wórd's óbsoléte.*
- (4) *the ínside tráck/ the tráck ínside*
- (5) (i) *ábsolute jurisdíction*
(ii) *It conférs absolúte jurisdíction.*
- (6) (i) *It conférs ábsolute pówer.*
(ii) *(worse) It conférs absolúte pówer.*

(3)(4)は強勢衝突回避のための強勢移動として英語でよく知られている例であるが、(5)(6)は左右どちら側からの強勢衝突回避圧力が強いかを示している。(5)(i)が(5)(ii)の文脈に現れると左側

の動詞の主強勢との衝突を避け、形容詞の主強勢が後方に移る(Bolinger 1986: 68)。一方、(6)(i)より(6)(ii)のほうが悪いという判断は、たとえ左側の動詞の主強勢と形容詞の主強勢が衝突しても後続の名詞の主強勢との衝突を回避する(Bolinger 1986: 68-69)ことを示しており、句境界における韻律的圧力の強弱を表している。(7)に構造を示す。

(7) [s [NP It] [VP [v confers] [NP absolute jurisdiction/power]]]

5 主強勢の揺れ

イギリス英語母語話者 21 名を被験者とする実験結果は § 4 で見たより複雑な様相を呈する。上述の(2)の分類に従うと以下のような例を挙げることができる。

(8) A= (2)(i)タイプ (個人間変異のみ)

例: comparable, preferable (ただし
21 名中 1 名は個人内変異を示す)
cómparable (8 名) vs. compárable (12 名)
préferable (18 名) vs. preférable (2 名)

B= (2)(ii)タイプ (個人内変異あり)

例: premature, applicable, communal,
formidable, justifiable

この他に個人間変異に関して *exquisite* は Wells (1990) では(9)のような記載となっているが、60 歳代の被験者 1 名以外は被験者用提示文 14 個すべてにおいて第 2 音節に主強勢を置いた。60 歳未満の話者では主強勢の揺れはなかった。

(9) *éxquisite* (31%) ~ *exquisite* (69%)

句境界において主強勢の揺れが観察される例のいくつかを以下に挙げる。

(10) (He described a...) seven per cent increase as [a justifiable and very fair] offer].’

(7 名が第 1 音節に主強勢)

cf. Is that justifiable? (19 名が第 3 音節に主強勢; (10)(i)の 7 名を含む)

(11) (i) [premature [fall frost]] (20 名が第 1 音節に主強勢)

(ii) [premature [voluntary retirement]]

(15 名が第 1 音節に主強勢)

(iii) [premature [surviving twins]]

(11 名が第 1 音節に主強勢)

cf. --- was premature. (18 名が第 3 音節に主強勢)

これらの形容詞が限定用法として名詞句の最初に現れた場合、叙述用法のときとは異なる主強勢が観察され、主強勢を前方に移すことは句の始まりおよび句境界を韻律的に示す役割を果たしていると考えられる。

6 まとめ

英語発音辞典における主強勢の揺れに関する情報は個人内変異を許さない絶対的変異を連想させるが、コーパスを利用した提示文を用いると文脈依存による個人内変異を引き出すことができ、強勢衝突回避という理由だけでは説明のつかない句境界における主強勢の揺れに対し、一つの解釈を与えることが可能となる。

本研究は平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究(c)(2) 課題番号 15520310)、および三重大学 COE 研究費による研究の一部である。

参考文献:

- Bolinger, Dwight (1986) *Intonation and Its Parts*. Stanford: Stanford University Press.
- Cruttenden, Alan (2001) *Gimson's Pronunciation of English*. 6th edition. Revised by Alan Cruttenden. London: Arnold.
- Hattori, Noriko (2004) "Stress Variants in present-day British English," *Philologia* 35, 5-21.
- (服部範子) (2005) 「進行中の超分節音変化をとらえる」日本音韻論学会(編)『音韻研究』第 8 号、1-8.
- Labov, William (1972) *Sociolinguistic Patterns*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- (2001) *Principles of Linguistic Change*, Volume 2: Social Factors. Massachusetts & Oxford: Blackwell Publishers.
- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子(1997)『社会言語学概論』東京:くろしお出版.
- Wells, John (1990) *Longman Pronunciation Dictionary*. Essex: Longman.
- (2000) *Longman Pronunciation Dictionary*. New Edition. Harlow: Pearson Educational Limited.